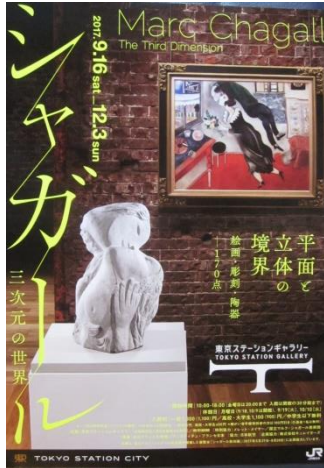


シャガール 三次元の世界

東京ステーションギャラリー（東京駅） 2017.09.16～12.03



「マルク・シャガール」(1887～1985)は、ロシア（現ベラルーシ）出身のフランスの画家・版画家で、1966年には17点の連作《聖書のメッセージ》を国家に寄贈し、「マルク・シャール美術館」が創設されている。

「シャガール」は、画家・版画家として著名であるが、晩年の64歳になってから多くの彫刻を制作していたことはあまり知られていないが、本展はそれらの作品を日本で初めて本格的に紹介するイベントで、関連する素描や絵画などと一緒に展示し「シャガールの三次元世界」を巡るという内容の展覧会企画である。

展示作品は、彫刻・陶器60点、油彩・水彩70点、素描・版画等40点で構成され、巨匠「シャガール像」に触れることのできる貴重な催事となるであろう。



《誕生日》（シャガールの誕生日に花束をささげるベラ）1923年 厚紙・油彩
画伯は「愛」をテーマに数多くの絵画を描いているが、本作品は若い恋人たちの愛やその気持ちを力強く伝える“愛を表現する素晴らしい作品”である。

彼の代表作である本作品は、プレゼントの花束を持参した恋人「ベラ」に、喜んで飛び上がってキスする作者自身の姿で、空中に浮遊する二人の姿、クッションの絵柄、テーブルクロス、ソファの赤いカーペット、リビングルームの調度品が実に正確に表現され、愛情に包まれている二人の喜びの証が見られる。

《二つの頭部と手》 1964年 彫刻

絵画の中の一部と同じモチーフを扱った「彫刻作品」で、同じモチーフでもそれぞれが独立した作品であり、同時につながっていることを感じられることは、非常に興味深いことであるとされている。